

令和7年度 学校関係者評価結果

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害教育の専門性継承を意識した各教科等における授業・実践力の向上</li> <li>・ICTを効果的に活用した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</li> <li>・学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめ事案の早期発見、早期対応の取組</li> <li>・教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境づくり</li> </ul>
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家活用事業を通して、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士を定期的に招いた学習会を今年度も開催し、ここ数年来、教職員の学びの機会が確保できている。また部を超えて互いの授業を参観し合う取組は3年目となり、参観率は全校で100%となった。自身の指導・支援力の向上につながった。次年度も継続して取り組んでいく。</li> <li>・小学部では自立活動、中学部では作業学習、高等部ではICT機器を活用した授業など各部で指導方法の改善を重ねた。情報図書部の給本給食の取組や支援部のSNS等の使い方教材の制作など、視覚的な情報が必要な児童生徒の授業で活用することができた。</li> <li>・生徒指導提要进行を基に、発達障害をもつ児童生徒への指導内容をイラストや図を交えたスライドにまとめたことで、発達段階に応じた課題解決から児童生徒の成長を促す指導ができた。また、「虹のつばさ」を通じて家庭への情報発信をし、いじめや不登校の未然防止や早期対応につながることができた。</li> <li>・年度当初に準備が必要な視覚支援データを集約し、他の教材とともに整理した。今後は職員に活用を促していく。また欠席連絡にメッセージアプリを導入した。教員の電話対応時間が削減されただけでなく、電話が繋がらない中連絡をしなければならない保護者の負担軽減にもつながった。</li> </ul>
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人一人が常に学ぶ機会として、校内職員が授業参観をし合う取組は今後も継続する。また専門家を招いた研修の機会を設け、学校全体で学べる環境づくりをしていく。</li> <li>・ICTの利活用については、高等部を主軸としてさらに小中学部にも広げ、児童生徒の学ぶ意欲が向上する効果的な活用方法を今後も探っていく。SNS等の利用に関しては、保護者の理解と協力が不可欠であるため、連携して健全な活用を目指す。</li> <li>・いじめや不登校については、日頃の小さな変化に気づくことができるよう、多くの教職員が児童生徒を見守り、変化に気づいた際は速やかに情報を共有し、早期に対応できるように、教職員の意識をさらに向上させる。</li> <li>・令和8年度末までに、教職員の長時間労働について月45時間超過をゼロにすることとなっている。地域の力やICTの導入により、教職員が授業に集中できる環境を整え、笑顔あふれる学校づくりを目指す。</li> </ul>
<p>その他 (学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当各部が重点目標や児童生徒の特性に配慮した授業や活動を実施している。</li> <li>・生徒の発達段階に応じて、作業学習内容や指導方法、授業内容、あるいは教育ツールを工夫・研究されており、成果もさることながらプロセスを重視している。</li> <li>・児童生徒自身のハンディの内容、家庭環境、命の重さなど多様な対応が求められ、教職員の誠実な指導態度があつてこそその現場かと思ひ、頭が下がる思いだった。各部の目標、取り組み姿勢はA。教職員の息抜きもどうケアされているか知りたい。</li> <li>・地元の町内会の行事にも御参加いただいている。今後さらににより多くの地域住民と交流し、アピールすることで、生徒や教職員の生きがいややりがいに役立てればと思う。</li> <li>・小学部では作業療法士が関わって先生方と自立活動について考えていてよい。アイデアの幅が広がりそう。その子に合った課題学習内容が増えることに期待する。</li> <li>・中学部の作業学習を増やすことは評価が高い。先生方にはとても大変なことだと思う。生徒たちのことをよく考えていると感じた。</li> <li>・高等部ではICT機器に驚いた。生徒たちのアイデア、閃きを引き出せるよう活用してほしい。</li> <li>・年度代わりの引継ぎは重要。新年度には今までの支援をリセットしないようお願いしたい。4月の大変さを少しでも減らすためにも支援はそのまま引き継いでほしい。支援者が変わっても生徒が落ち着けるように。安心グッズの活用など</li> <li>・目標に沿って具体的な方法で行われている。課題点もはっきりとしているので今後に期待。</li> <li>・私たちが知らないところでいろいろな努力をしていることを知った。特にICTの活用は時代とともに求められていて支援の方法の一つとして効果的だと感じるので今後も活用してほしい。</li> <li>・先生方が元気でないと子どもたちも元気になれないと思う。先生方にも子どもたちにも安心できる学校であってほしい。いつもありがとうございます。</li> <li>・セルフレジや駅の券売機の事前学習でICT機器を活用して学習することは家庭ではできない。学校だからこそできる学習だと思う。おかげで当日も安心して校外学習に参加できた。</li> <li>・新聞記事等で豊川特別支援学校のことを見つけると、みんな頑張っている、とうれしく思う。</li> <li>・ICT機器の活用ももちろん大切だが、付き合い方も本、家庭、学校で学んでいけるとよい。</li> </ul>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>構成・・・15名 (学校評議員4名、保護者代表4名、校長、教頭2名、事務長、部主事3名) 評価時期・・・2月</p>

